



悪いことと 悪い子とは違う

榎本 栄次

新潟にある敬和学園高等学校は、私が約20年前、校長を勤めていた学校である。

新学期始まって間もないころ問題が次々起こり、なぜか盗難事件が相次いだ。叱ってみたり、調べたり、説教したり、話し合ったりいろいろ悩んでみたけれどどうも効果が出ない。どれも空鉄砲に終わっていた。行き詰まったとき、逃げ込むところがある。それは「祈り」であった。朝の礼拝で全校に呼び掛けた。もう盗難のことは言わず、祈るしかないと思った。

「今週から毎週金曜日の朝6時30分から早天祈祷会をします。だれでも参加してください」。

何人来てくれるだろうかと思っていたが、なんと20数名の参加があった。寮の生徒がほとんどだったが、通学生の参加者もいた。一人相撲かと思っていたら生徒も教師たちも皆悩んでいたのだ。不思議なことに、その年度の終わりまで盗難事件は起こらなかった。その時に教えられたことは「悪いことと悪い子とは違う」ということである。生徒は悪いことをしたり、考えたりする。しかし悪い子ではない。早天祈祷会は、今も続いている。

「いい学校」というのは悪いことをする子のいない学校や、問題のない学校ではない。子どもの抱えている問題と真剣に向き合い、深いところで取り組んでいる学校が「いい学校」である。この年の若者は多少の差はあるが、誰でも悪いことをしたり、考えたりしているものだ。

大盗賊・石川五右衛門は「浜の真砂は尽きるとも、世に盗人の種は尽きまじ」と言って最後の刑についたと言う。聖書は裏切り者であるイスカリオテのユダのことを「12弟子のひとりのユダ」と表現している(ルカ22:3、22:47)。これは裏切ったのはユダ一人ではなく、同じ要素を他の弟子たちも持っていたということだろう。

どんな清い集団の中にも12分の1ほどの悪魔性を抱えている。その矛盾を抱えての相克や葛藤こそが人の生きているということではなからうか。

ある年の6月、県内の私立高校の校長会があった。この日は中学校校長を招いての会合であった。それぞれの高校では新一年生を迎え、一応の落ち着きを見せ、そろそろ地金の出始めたところである。

「今年の一年生はどうですか」

中学校の校長先生方は自分たちが送り出した生徒の様子が聞きたい。来年度の進路指導を考えねばならない。高校の方とすれば、一人でもよい生徒が欲しい。他の学校に比べて少しでも好印象を持ってもらわなければならない、大切な会である。

各高校から一年生の様子が報告された、

「今年の一年生は格別いいですね」。

「特にいいです。何の問題もありません」。

「バカいいです。明るく元気です」。

どの学校も素晴らしい状況報告ばかり。進学で有名なD高やM高の先生は得意気である。うらやましい。悪い話は皆無である。恥ずかしい。どうしよう敬和学園の報告の番が来た。気が重い。よい報告などできない。かと言って嘘を言うわけにはいかない。ええい、仕方ない。正直に話そう。

「敬和学園は、問題がいっぱいです。教師たちは頭をかかえ、夜遅くまで会議をしています。お先真っ暗のような毎日です。飲酒喫煙、不登校、盗難、暴力、男女問題などに振り回されています。木の芽時のように問題が次々起こっています」。

何人かの人が失笑していた。

報告の後、私の心はどん底で、このまま逃げて帰りたい気分になった。とんでもない学校のように思われたに違いない。もっとかっこよくできたのに。敬和の生徒や教師たちにすまないことをした。敬和の生徒は本当にいい子ばかりだ。悪いことを少ししているだけで、悪い子ではないのに。

一部が終わり、酒の席の懇親会に移った。するとどういうわけか、次々と中学校の先生方が私のところに来て酌をし話すのだ。

「よい報告聞けました。見ていないだけですよ」。

「敬和だけです。教育しているのは」。

「うちから行った生徒は喜んでいます」。

「いいことばかりあるはずありません」。

この会合を終えて、わたしの内である確信が湧いた。この子たちは悪いことをするけれども決して悪い子ではない。彼らは輝く宝物を持っているこう。一緒に恥をかこう。

私も12弟子のひとりなのだから。

✧ なんどきですか ✧

・コロナウィルスの災禍が世界を覆っている。全員閉じこもり状態。学校に行くな。旅行もダメ。不要不急の外出は控えること。パチンコはだめ。夜の盛り場も火が消えた。教会の礼拝にも来るな。会議も、集会も皆ストップ。病院もストップ。初めての経験でもう4カ月を過ぎようとしている。

・早く家に帰ってじっとしていること。家の中は密集、密閉、密着状態。どうすりゃいいの。

(by E.E.)

◇おさそい◇

★6月24日(水) 18:30~20:30

お茶のこころと宗教のこころ

「D.ボンヘッファー(1906~1945)の遺稿『倫理』を新版で読む」第1回

講師：山崎 和明(四国学院大学名誉教授)

②7月22日、③8月26日(全10回予定)

~2021年3月まで 第3または、第4水曜

※予定に変更があります場合は、ウェブサイトでお知らせしますとともに、お申込の方には、メールなどでお知らせいたします。

♡ありがとうございました♡

関西セミナーハウス活動センターへの
賛助会費・寄付金

2020.1.1-4.30 順不同・敬称略

西岡 裕芳、宇井 裕美、日本基督教団西が丘教会、小山 稔、合同会社AgroKraft、今川 泰彦、藤田 恭子、山本 茂、糸原 良禎・由美子、在日大韓基督教京都教会、柳井 一郎、延原 正海・千恵香、桃山アシュラム、井上 明、南 和子、日本基督教団天満教会、日本基督教団世光教会、西川 武、鳥井 清司、日本基督教団平安教会、京都キリスト教協議会、匿名、山本 良昭、松平千鶴子、廣瀬 芳之、藤本 和子、佐々木公子、米澤 敏子、東 千代、日本基督教団京都教会、森 雄子、村上 みか、山崎 和明、立石 昭三、福留 順子、浦 晴子、徳丸 延子、シュペネマン クラウス、宇野 稔、林 律、中山 晴美、柳井 繁彌、中村 信博、多木 秀雄、斉藤 洋子、上條 美代子、医療法人わたなベクリニック、松岡 蓉子、川北 かおり、藤倉 寿美子、伊藤 威知郎

投稿 京都俳句きらら会他

- | | |
|------------------|----|
| ・谷の瀬の音のまにきく初音かな | 周豊 |
| ・ウィルスに明け渡したる花見かな | 公女 |
| ・真っ青な空を横切り初燕 | 茶香 |
| ・夜目遠目マスクの女美しく | 星児 |
| ・春の風乗りて無き船吹き抜けて | 海楽 |
| ・池の面に模様を描く花吹雪 | 枯骨 |
| ・南朝の跡覚えける花ならぬ | 岳 |
| ・舟一つ湖に浮かべておぼろ月 | 虚舟 |

四季だより

もえぎ ～萌黄の宝石～

関西セミナーハウス庭園担当 榎 廣光

いつもは賑わう桜の時期もいつの間にか足早に過ぎ去り、夏日を感じさせる日も増えてきた。もう立夏である。

一乗寺界隈の丘陵地一帯も芽吹いたばかりの青もみじで満開である。ほのかに新芽の香が漂っている。今年は暖冬だったせいか例年よりも少し早い気がする。

朝日に照り映える青もみじを下から見上げるとまるで「萌黄の宝石」である。ひととき桃源の世界に浸る。何よりの自然の恵みである。この萌黄の宝石は、さまざまなリラックス効果を秘めているようだ。フィトンチッドという成分である。細菌や害虫から身を守るため木が自ら発散しているそうだ。人も経験的に学習したのか疲れを感じたときにそういう場所に自然に足が向く。

ところが今は、一旦家の外に出るとマスクが歩いているようなものである。そう新型コロナウイルス。毎日目にしない日、耳にしない日はない。

ある科学者曰く、新型コロナウイルス感染症の世界的流行は人間の営みに問題があると。生態系への人間の無秩序な進出が原因だという。開発を名目にした森林伐採などである。森林減少により、野生動物の生息域が狭められ、人間との距離が近くなったことが、新たなウイルス感染症の発生につながるとか。これらすべて人の為せる所である。よくよく肝に銘じなければならない。

いま最前線で、命がけで新型コロナウイルスに対処されている方々に心から感謝の気持ちとエールを送りたい。

